

「医療経済学会 第20回 研究大会」 開催報告

2025年9月6日(土)、後藤 励 氏(慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授)を大会長として「医療経済学会 第20回 研究大会」が慶應義塾大学 三田キャンパスにて現地開催されました。参加者143名の皆様にご参加いただき、盛会裏に終了致しました。



一般演題は4会場に分かれ、24演題の発表がなされ、それぞれの演題で現地開催ならではの活発な議論が行われました。また、「第24回 若手研究者育成のためのセミナー」も同時に開催され、若手研究者4名からの発表とコメンテーターや会場参加者から実践的なアドバイスを提供する機会も設けられました。



シンポジウムでは、大会長の後藤 励 氏からのご挨拶の後、後藤 励 氏および慶應義塾大学経済学部 井深 陽子 氏の司会により、「医療者の労働市場を考える－医師の働き方改革を中心に－」をテーマとしてパネルディスカッションが実施されました。臼井 恵美子 氏(一橋大学経済研究所)、大湾 秀雄 氏(早稲田大学政治経済学術院)、小池 創一 氏(自治医科大学 地域医療学センター)および吉村 健佑 氏(千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター)の4名のパネリストによるご講演の後、講演内容を踏まえたディスカッションが行われました。会場からも多くの質問が寄せられ、活発な意見交換がなされ、大変盛況のうちに終了いたしました。



夕方に開催された総会の中では各表彰も執り行われました。

2024年度 学会論文賞では、沢田 拓哉 氏(東北大学大学院 経済学研究)が「日本の医薬品市場における広告の利益率への効果分析」の論文にて、および、森田 和仁 氏(東京大学大学院医学系研究科 臨床疫学・経済学)が「生活習慣病に関する総合的な治療管理が避けられる入院に与える影響：後ろ向きコホート研究」の論文にてそれぞれ受賞されました。

本研究大会 若手最優秀発表賞では、草野 哲史 氏(早稲田大学経済学研究科)が「The Effect of Maternity Ward Closure on Physician's Practice and Health Outcomes for Infants in Japan.」の演題にて受賞されました。

最後になりますが、本研究大会にご参加、活発なご討議を頂き、盛会に導いて下さいました皆様方に、深く御礼申し上げます。次回第21回研究大会は、康永 秀生 氏(東京大学大学院医学系研究科 臨床疫学・経済学教授)を大会長として、2026年9月5日(土)に東京大学にて開催を予定しております。次回はさらに多くの皆様のご参集を賜れますよう、願っております。

(医療経済学会 事務局)

